

古座町におけるカスミソウ栽培について

1. はじめに

現在、東牟婁地方では、生産者の高齢化により花き生産は停滞もしくは減少傾向にある。そのような中で、名古屋市場で大きく注目されている宿根カスミソウの産地が古座町上野山にある。

古座町の産地は、農林業地域改善対策事業として取り組んできたものであり、平成3年4月に、念願の花き生産団地が完成した。

事業内容は、2.9haの造成地に430㎡の単棟ハウス25棟、648㎡の育苗ハウス2棟、250㎡のミストハウス1棟の他、共同作業場、倉庫、堆肥舎で12戸が入植している（写真1）。

生産者は、住吉花き生産組合を結成し、宿根カスミソウ栽培に取り組んでいる。

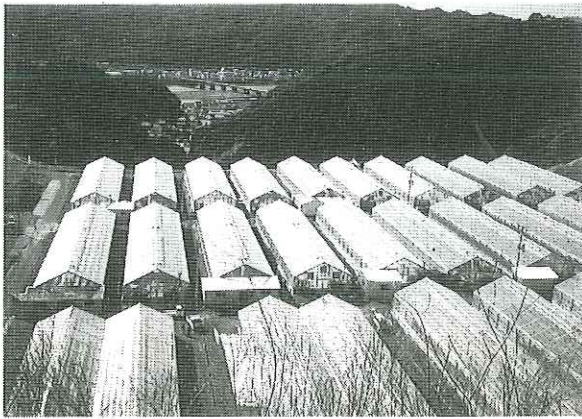


写真1 カスミソウ栽培の施設群

2. 取り組みの現況

宿根カスミソウは、畝幅120cm、株間30cmの一条植え（2,800株/10a）で2度切り栽培を行っている。品種はブリストル・フェアリーで、今年度は1.2ha作付けしている（写真2）。

定植は、8月下旬と9月上旬に分けて行い、労力の分配、長期出荷による収益の安定に努めている。今年度からは10月上旬定植の作型も導入し、10月下旬から5月上旬までの継続出荷にも挑戦している。

販売は、個選共販体制で全量名古屋方面に出荷している。出荷数量は年間約6,000ケース、粗生産額は約2,800万円（平成5年度実績）である。階級別にはL級が約70%（芯のみ）を占める。

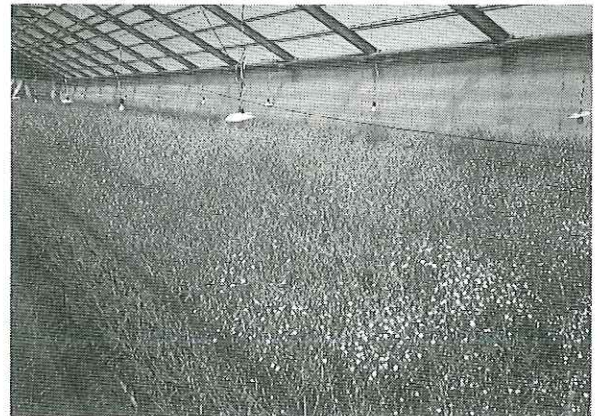


写真2 カスミソウの栽培状況

3. 今後の方向

生産物の品質は高く、名古屋市場における評価も年々高くなっている。

当初、事業を前提として行われた事業であったが、組合員の花き生産にかける意欲・期待は大きく、専業農家を希する声もでてきている。しかし、現状の経営面積では専業は難しく、面積拡大が今後の大きな課題である。

（東牟婁地域農業改良普及センター）